安心と笑顔のために

日本共産党札幌市議団ニュース

No.348　2023年11月20日　　日本共産党札幌市議団 事務局　TEL 211-3221／fax 218-5124

除雪事業者の声を受け止め　人材確保を

11月06日　建設委員会　吉岡ひろ子委員

今年度の冬道プランでは、毎年43台の1人乗り化の除雪機械を導入。2027年に390台に増える予定。しかし、1人乗りでの厳しさを考えると、台数に見合うオペレーターの確保ができるのか懸念しているとして、吉岡市議が質問に立ちました。

吉岡市議は最初に「除雪機械の1人乗り化は、安全性等を確認しながら、段階的に進めているとのことですが、除雪事業者からはどのような声があるのか」と質問。八木雪対策室長は「オペレーターからは、『安全補助装置が設置され、安全に作業が行える』『確認作業がこれまでと異なり、安全補助装置への慣れが必要』という意見が上がっている。また、除雪事業者からは、『早急に1人乗り化に移行したい』との意見もある一方で、『後進オペレーター育成のためには当面は2人乗りを続けたい』との意見もある」と多様な意見が出されていると答弁しました。重ねて吉岡市議は「今後さらに1人乗り化を進めるにあたり、除雪事業者からの声に対して、どのように取り組むのか」と質問。八木室長は「安全補助装置を設置した除雪機械に慣れるため、必ず1年以上、助手が同乗し作業を行うことを義務づけ、1名乗車で安全に作業ができることを確認した上で、段階的に1人乗り化に移行するよう取り組んでいる。また、1人乗りに特化した講習会や、若手オペレーター育成の研修などを行い、安全補助装置に慣れる機会を設けながら、1人乗り化の拡大に取り組んでいる」と答弁しました。

吉岡市議は最後に「市が除雪従事者の声を受け止め、必要な場合は、1人乗り化を見直し、除雪従事者が安心して働くことができる環境と、人材の確保で安全な除排雪作業を」と求めました。

市電延伸署名提出　副市長と懇談も市はゼロ回答

11月17日　小形市議　同席

市電を守り再配置を進めるプロジェクトと中央区民の要求を実現する連絡会とが共同で「市電延伸署名」、2040人分を提出しました。提出にあたってプロジェクトの代表である荒川尚次氏は「20年を超えて受け継がれてきた、市電『検討3路線（駅前通り線・苗穂線・桑園線）』の実現はまったなし。計画がストップすることは許せない。8年前に実現したループ化につづいて、人と環境にやさしい市電を、まずは駅前通りでJR札幌駅と結ぶこと」と強く求めました。また、「環境にやさしいという点が見直されており、市電を撤廃した所から、復活させた海外の都市もある。札幌市は遅れている」とも指摘しました。

対応した天野周治副市長は「延伸は極めて困難。駅前にはトラックの荷下ろしやタクシーなどがいるため、市民生活にも影響がある。用地取得も考えると、既存の路線にも影響が出かねない」と議会での答弁から一歩もふみ出そうとしませんでした。

署名提出後の懇談会では、参加者から「（天野副市長の答弁は）あれではゼロ回答だ」「ゼロ回答で驚いた。もう少し何か言ってくれると思っていた」と市電をまちづくりに生かそうとしない姿勢に怒りと落胆の声が上がりました。また「札幌に移り住んで来て数年になるが、チグハグなまちづくりだと感じている。交通が繋がっていない」「これでは観光客が滞留しない」などの感想も出されました。一方で「ここが転換期だ。がんばりたい」と今後活動に対する意欲も語られました。